

令和 8 年 4 月号 (No.270)

発行責任者

公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会

湘南支部長 中尾 剛久

茅ヶ崎市赤羽根 2661 - 26

Tel : 090-4897-4074

隊 友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「隊友会本部総会時の県会長による議決権の代理行使のための委任状の提出のご協力をお願いについて」(事前連絡)

「隊友」4月号に掲載されます通り、令和8年度は6月24日に「隊友会令和8年度定時総会」が東京で開催されます。この総会に神奈川県隊友会代表として会長が出席し、県代表の議決権を行使します。

1. 委任状

議決権を行使するためには、正会員各位から委任状を提出していただく必要があります。隊友会の規約により正会員数の1/2以上からの委任状が必要となっています。なお、隊友紙を購読していない正会員は、隊友会本部の議案が掲載される5月号隊友紙を確認することができないため委任状の対象としないこととなりました。よって、正会員の隊友紙購読者74名の過半数37名の委任状が必要となります。正会員各位のご協力を宜しくお願い致します。

2. 隊友会総会議案

総会議案の内容は、5月号の隊友紙に掲載されますのでご確認ください。

3. 電磁的方法(メール)による議決権の代理行使の方法

前回から電磁的方法(メール)による議決権の代理行使の方法が推奨されています。このため、湘南支部としては既にメールアドレスを登録されている正会員にはメールで議決権の代理行使の方法に

ついてご連絡いたします。(4月下旬頃を予定)

4. 電話またはハガキによる議決権の代理行使の方法

電話による議決権代理行使の可否についての確認が可能となりました。このため事務局から電話を活用し確認します。もしくは少人数宛となりませんが、従来通り別途送付しますハガキの「議決権の代理行使書(委任状)」に必要事項を記入の上返送をお願いします。

5. 事務局の考え方

昨今の郵送料金、宅配等の値上げに對しましてはその節減対策に苦慮しております。このため、本件に關しましては極力メール又は電話による確認を主用とし対応し、目標の37名の議決権代理行使の承諾を得次第はがきの郵送は終了します。

(1) メールアドレスを登録されている会員へは、4月下旬頃送付しますメールに必要事項をご記入の上返信をお願いします。

(2) メールアドレスを登録されていない会員へは、事務局から電話で代理行使の可否を確認いたしますのでご協力ください。

(3) 最後の方法として一部の会員へ送付しますハガキの「議決権の代理行使書」に必要事項をご記入の上、ご返信、ご返送をお願い致します。

(4) 現在正会員の方でメールアドレスを登録していない会員は、ま

だ時間的に余裕がありますのでこの機会に事務局へ登録をお願い致します。またアドレスの変更等がありましたらご連絡下さい。踏力をお願いします。

以上議決権の代理行使のための委任状の提出のご協力をお願いについて事前にお知らせ致します。

「お問合わせ先」

湘南支部事務局長 小見山 雅

Eメール:

komi.yama@kt.d.biglobe.ne.jp

電話 : 090-2157-5297

「令和8年度湘南支部総会における、防衛講演会のご案内」

1 日時: 令和8年5月23日(土)

15:15~16:30

2 場所: 藤沢市商工会館「ミナパーク」(5階502会議室)

3 講師: 公益財団法人 笹川平和財団 安全保障研究グループ 上野フェロー 小原 凡司 (おはら ぼんじ)氏

※防大第29期卒、筑波大学大学院(地域研究修士過程)修了、海上自衛隊の回転翼操縦士(パイロット)、2003年~2006年 中国防衛

駐在武官、2006年 海幕(調査課情報班長)勤務、2009年 第21航空隊司令(館山)、2010年退職。2011年 IHS ジェーンズアナリスト、2013年 東京財団研究員、2017年 笹川平和財団上席研究員、2023年~現在

上野フェローとして、テレビ解説や執筆活動で広く活躍中。
4 演題: 「講師選定中」
5 懇親会: (5階503会議室) 16:50~18:20
4月中旬には支部総会等ご案内をお送りいたします。

・メールアドレスを登録されている会員へはメールでご案内します。
・メールアドレスを登録されていない会員へは、郵送によりご案内します。



講師: 小原 凡司 氏

レイテ海戦の反転は敗北ではない
— 海軍の哲学と命の重み戦後81年に問う「決断」の重み

特別会員 栗田 恵子

戦争という極限状況は、人間の本質、そして組織や国家の哲学を鋭く浮き彫りにします。その問いは現代においても色あせることはありません。ウクライナやガザでの紛争、あるいはイラン攻撃のニュースが報じられるたび、私たちは平和の尊さと決断の重みを改めて突きつけられます。日本は戦後81年を迎え、多様性を重んじる社会へと歩

みを進めています。戦争の記憶は今なお私たちの足元に深く根を張っているのです。

栗田健男中将の決断と「謎の反転」

太平洋戦争の勝敗を分ける最重要局面の一つであったレイテ海戦において、主力艦隊を率いた栗田健男中将の「謎の反転」は、今もなお語り継がれています。決死の覚悟でレイテ湾のアメリカ軍に迫った栗田艦隊でしたが、目標を目前にしたところで、突如として引き返す決断を下しました。

この「栗田ターン」と呼ばれる行動は、戦後長らく「なぜ好機を逃したのか」「あれが敗因だ」という批判や議論を巻き起こしてきました。しかし、この反転を単純に「敗北」や「機会の損失」と断じることはできません。そこには、当時の日本海軍に流れていた「国のために個人の命を捧げるのは当然である」という精神そのものを、根本から問い直すような深い葛藤があったのです。

沈黙を貫いた健男と、受け継がれた運命

父健男は戦後、自らの真意を誰にも語ることなく、その想いを心に秘めたまま生きました。

私は母方の伯父である小泉信三（元慶應義塾大学塾長）の元に引き取られ、健男の「汚名」が私の人生に影響しないよう配慮されて育ちました。その配慮の深さに、家族としての責任と優しさを感じると同時に、私は健男の決断を自らの血肉として問い続ける運命を背負うことになったのです。

健男がなぜ、最前線にあつて勝機への執着を捨て、若い兵を生かす選択をしたのか。その真相は、私の人生を通して考

え続けてきた最大の問いとなりました。

戦局を超えて問われる「生」への選択
病床で明かされた真相と、沈黙の誇り

沈黙を貫いた健男でしたが、たった一度だけ、病床にある私に反転の真相を語ったことがあります。「突入すれば、我が艦隊は全滅するだろう。若き兵士を無駄死にさせるわけにはいかなかった」。その言葉は、軍人としての論理と、人間としての良心のはざままで苦悩し続けた健男の姿を象徴していました。

「死地への突入」が美德とされた軍人社会の中で、あえて反転を選ぶという行動は、命の価値を最優先に考えた勇氣ある決断だったと言えるのではないでしょう。戦後、GHQによる尋問においても、健男は明確な答えを示しませんでした。その沈黙は、命と責任の重みを真に理解した者が持つ「静かな誇り」であつたと私は感じています。

医療の現場に重なる「命」の磁石

私が医療の道を志したことは、決して偶然ではありません。健男の言葉と沈黙が、命の重さを考える磁石のように私の人生を導いたのです。

医療の現場では、時に一人の患者の「生」を救うために、別の選択肢を断念せざるを得ない過酷な瞬間に直面します。

私は医療安全学や解剖学を教える中で、学生たちに自問自答を促してきました。「あなたは何を優先し、どこで線を引くのか」「組織の方針と患者一人ひとりの尊厳が衝突したとき、どう行動するか」。

この問いは、かつて戦場という極限状態の指揮官であつた健男が直面した苦悩と、深く通じ合っているように感じてな

りません。

歴史から未来への価値観を問い直す

私たちはつい、歴史上の決断を現代の価値観だけで評価しがちです。しかし、当時の状況や背景、そして決断を下した人物がどれほどの重圧を背負っていたかに想像を巡らせたとき、単純な善悪や勝敗を超えた「人間としての在り方」が見えてきます。

戦史を語るといことは、過去の過ちや栄光を反芻することではありません。むしろ未来に向けて、私たち一人一人がどのような選択をし、どんな価値観を大切にしたいのかを問い直す行爲です。健男の反転が「敗北」であつたのか、それとも「命を重んじる決断」であつたのか。その答えは、今を生きる私たち自身の問いと重なっているはずで

いま改めてレイテ海戦という歴史の層を掘り下げることは、過去への郷愁ではなく、「命とは何か」「責任とは何か」という普遍的な命題への出発点であると信じています。

最後に、太平洋戦争およびレイテ海戦で命を落とされた多くの兵士の方々に、心より哀悼の意を表します。

著者：栗田恵子（2026年3月31日）

※本稿で言及した健男の姿勢やGHQ尋問記録の詳細については、米国海軍歴史遺産司令部（NHHC）の公式ウェブサイトにてご確認ください。

【GHQ尋問記録】米国海軍歴史遺産司令部（Naval History Command, NHHC）HPより…

<https://www.history.navy.mil/research/library/online-reading-room/title-list-alphabetical/y/i/interrogations-japanese-officials-vol.i.html>
(NO9・フィリピン海海戦およびレイテ湾の戦いをご参照ください)

令和8年度年会費納入者（敬称略）

湘南支部長（三月三十日現在）

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別会員

松長由美絵、

新入会員のお知らせ（敬称略）

正会員

加藤 敏明 元陸上自衛隊

中東情勢

支部理事役 深澤 文晴

現在、中東情勢が混乱して原油の輸入が滞っており日本経済にも影響を及ぼしている。

石油関連製品は、日常生活や企業活動には必ず使用されており各企業の減産や製品の値上げが加速している。

「支部の予定」

- ・05/16（土）第2回支部理事役会
- ・05/22（金）5月号隊友紙発送
- ・05/23（土）総会・防衛講演会
- ・06/06（土）第3回支部理事役会
- ・06/19（金）6月号隊友紙発送

編集後記

今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。